

平成 27 年度第 4 回（第 10 回）米沢市総合計画審議会 会議録

1 日 時 平成 27 年 8 月 7 日（金） 13：30～15：30

2 場 所 伝国の杜大会議室

3 出席委員

尾形健明会長、安部美和子委員、泉多恵子委員、遠藤秀平委員、大和田浩子委員、奥村あい子委員、小野寺忠司委員、佐藤大喜委員、柴田正孝委員、島津眞一委員、白石祥和委員、鈴木清治委員、清野雅好委員、中嶋朱実委員、林宗太郎委員  
以上 15 名

（小野浩幸委員、白井裕久委員、佐藤晃代委員、我妻仁委員は欠席）

事務局

副市長、総務部長、企画調整部長、市民環境部長、健康福祉部長、産業部長、建設部長、水道部長、市病事務局長、教育管理部長、議会事務局長

（会計管理者、教育指導部長は欠席）

総合政策課 課長、課長補佐、総合計画策定室長、企画調整主査、担当

4 会議録

（1）開会

（2）会長あいさつ

会 長 お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。審議会の熱意が伝わったのか、外も負けじと暑さが増しています。いよいよ本日をもって答申まで漕ぎつけることができます。皆様の御尽力に御礼を申し上げます。ありがとうございます。本日は答申の前に議論がございますので、どうぞよろしく願いいたします。

（3）議事

事務局 審議会条例第 5 条第 2 項の規定により、会長が議長となることとされております。尾形会長に議長をお願いしたいと存じますのでよろしくお願いいたします。

会 長 それでは、議事に入りたいと思いますが、本日の会議につきましては、午後 3 時までには終了したいと考えておりますので、議事の運営につきまして委員の皆様のお協力をお願いいたします。本日の議題は、既に御案内のとおり、昨年 6 月に市長からの諮問を受け、本審議会で議論を重ねてまいりました「次期米沢市総合計画の策定」について取りまとめ、これを答申として御報告申し上げることでありますので、よろしくお願いいたします。それでは次第に沿って進めさせていただきます。はじめにパブリック・コメントの実施結果等について事務局から説明願います。

事務局 資料 1 「パブリック・コメントの結果」に基づき説明

- パブリック・コメントは実施期間が平成 27 年 7 月 1 日から 7 月 21 日まで実施しました。
- 御意見の提出件数は提出者数が 11 名、提出御意見数が 50 件ございました。
- 御意見の主な内訳については、将来像についての御意見が 5 件、基本理念等に関するものが 3 件、基本計画に関するものが 34 件、その他全体的な御意見等が 8 件となっております。

- このうち、総合計画の中で反映した御意見が2件ございます。
- 資料1の3ページにあります「市街地形成の基本的方向」についての御意見です。これからのまちづくりについて、中心市街地について書かれていますが、周辺地域について記載が足りないのではないかと趣旨の御意見を頂戴しましたので、基本構想の「市街地形成の基本的方向」について、周辺地域の方向性等について記載を加えました。
- 2つ目は11ページの33番の御意見についてです。再生可能エネルギーの関連ですが、記載が具体的にできないかと御意見を頂戴しましたので、「バイオマス等」と具体的な名称を入れさせていただく形で御意見を反映しております。
- その他、修正なしとさせていただいた御意見につきましては、現在取り組んでいる取組等への御意見については、現在取り組んでいる内容について、個別具体的な取組に対する御意見で、今後こちらの計画を受けて作成する実施計画で参考にさせていただくもの、あるいは検討させていただくものについては、その旨を記載しており、いただいた御意見については、なるべく今後も含めまして参考にさせていただく趣旨で回答を作成しております。
- なお、御意見の受付期間以降も御意見を若干頂戴しておりますが、そちらにつきましては、パブリック・コメントという形ではないですが、御意見につきましては、担当する課へ送付させていただき、今後の施策等について参考にさせていただくこととしております。
- パブリック・コメントの実施結果については、市のホームページと各コミュニティセンターで広く市民の皆さまに公表いたします。

会長 委員長 委員長 会長 事務局長

それでは、御質問、御意見ございますか。

(発言なし)

それでは事務局の説明どおりということよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。続いて、答申案について、事務局から将来像について説明をお願いします。

事務局 資料1「パブリック・コメントの結果」及び資料2「新総合計画の策定について(答申案)」に基づき説明

- 基本構想の将来像は、『ひとが輝き 創造し続ける 学園都市・米沢』ということでこの審議会でお決めいただいたところです。
- パブリック・コメントは、市民の皆様から自由な意見をいただくということで実施しましたが、資料1の2ページで将来像について3つほど御意見を頂戴しているところです。学園都市の表現についての御意見ですが、それに対する回答としまして、学園都市が持つ機能を最大限活かして、観光に限らず、商工業、農業、教育、子育て等幅広い分野の施策を推進し、まちづくりを行うこととしており、審議会でお審議いただいた内容をそのままお伝えしているところがあります。
- 一方で、市議会には市政協議会という議会全体の勉強の場がございます。そちらで、今回の総合計画について御報告をさせていただきました。将来を決める

重要な計画ということで、個別の会派の勉強会も開かせていただき、御意見を頂戴したところです。そこでも、市の将来像についての御意見がありました。内容は、学園都市についての御意見であります。当然米沢に山形大学工学部、山形県立米沢栄養大学、山形県立米沢女子短期大学の3つの大学があるということで、学園都市ということは認識いただいているところですが、10年後の将来像としてどういうものを狙っているのかが漠然として分かりづらいという御意見やそれに関する御質問を頂戴したところです。

- パブリック・コメントで回答した内容に付け加えて、審議会の中においても相当御審議をいただき、その中で米沢らしさを是非出したいということで米沢の特徴として学園都市を出すということでお決めいただいたことを説明しましたところ、ある会派から「趣旨は理解でき、まさにその通りだと思うが、一般市民が聞いて、すんなり理解できるでしょうか。」との御意見を頂戴したところです。そういったことから事務局では、特に強力な反対意見とは思ってはいないところですが、この場をお借りして、この将来像について改めて皆様の御意見を集約していただきたいと思えます。
- 事務局としましては、この将来像を確固たるものとするべく改めて御意見を頂戴したいと考えています。また、他の意見もあるのではないかとということも含めまして取りまとめをお願いします。

会 長     ありがとうございます。事務局の説明にあったように、キャッチコピーのような意味合いもあるかもしれませんが、将来像は10年後の米沢がこうなっている、こうしたいという目標になるわけですので、皆さんにより分かりやすい表現にすべきなのか、再度意見を頂戴したいと思えます。私の意見としましては、まちづくりの計画をつくる際に、やはり米沢らしさが必要なわけで、米沢らしさが何かと考えたときに、人口8万人の中に4,000名という人口の5%の大学関係者がいますので、米沢らしさと言えば、まず学園都市や高等教育機関があるということが大きな特徴ではないかと思えます。もちろん、上杉文化のように綿々と繋いできた歴史的文化や上杉鷹山が興譲館をつくり、人づくりを行ってきた歴史がありますので、そういうところも米沢らしさの一つであろうと思えます。また、自然環境にも非常に恵まれた土地でありますし、そういった多くの特色を我々審議会が認識して出てきたものが「学園都市・米沢」であると考えます。

私が山形大学関係者でありますので、こういうことが言えるのかもかもしれませんが、是非10年間は学園都市を引っ張って行って、これを大いに活用し、米沢のまちをよくしていきたいと思っています。

それでは、将来像につきましては、午後3時まで御審議をいただければと思います。もし早く審議が終了した場合は、これまでの審議経過についてのお話や、これからこの計画を皆さんでチェックしていかなければならないと思えますので、米沢市がちゃんとやっているのかということをチェックする機能を新たに作った方がいいのではないかなどの御意見をいただきたいと思えます。

将来像の学園都市という言葉が中々馴染めないのかなと思えます。米沢の人と話をする、敷居が高くて大学の門から入りづらいと言われます。オープンキャ

ンパスや市民の方に入ってもらうために色々なことをやっているのですが、それでもまだ入りづらいと言われます。また、大学の教員・職員が米沢市民とどれだけ日頃交流をしているのかということも大事だと思います。私はバドミントンをやったり、町内会の役員をやったりして交流を深めてきましたけれども、地域との交流については大学側にも責任はあると思います。それから、住民票を移している学生が全体の1割しかいないという話がありまして、そういったことを含めまして学園都市らしくするためには、もっと米沢と大学の関係を密にしていかなければならないと思っています。委員の皆さんの御意見をいただければと思います。

委員 結論を先に申し上げますと、会長の見解に全面的に賛同します。というのはいくつも理由があります。委員の皆さまも御承知のとおり、これまで審議を重ねてきていることでもあります。賛同する理由の一つは、尾形会長が初回か2回目の審議会で、米沢らしい特殊解を導き出す10年にしましょうと皆さまにおっしゃいました。審議会ではそれを念頭に置いて議論してきました。そのキーワードが学園都市であり、他の都市にない要素が大学や短大の存在であり、それを基に基本目標にある、永続的に都市として繁栄し続けるためには、米沢の場合には高等教育機関が欠かせない要素というのが皆さんの御認識であったと思います。理由のもう一つは、産業界の立場から言わせていただくと、米沢の産業が振興していく鍵は大学にあると思っています。今までの審議では、市民所得の向上等、色々な意見がありました。そのためには特徴ある産業、付加価値の高い産業を生み出していかなければならず、その英知は大学にあるのだらうと思います。さらなる理由として、学園都市という言葉は唐突に出てきたものではなく、長年の伝統として米沢には人づくりの精神があるということです。その人づくりによって未来を担う人を育てて、永続的に都市として繁栄し続けていくという思いも込められています。ですので、学園都市とは決して情緒的・印象的なばかりの形容ではないと思います。もう一度確認をしていただければ良いのかなと思います。

会長 他に御意見ありますか。

委員 私の中での認識としましては、これまで審議を重ねてきた中での実感として、次世代の米沢を担っていく若者たちが他に引け目を感じることなく、全国や世界を相手に考え仕事をしていけるという都市機能を持たせるためにも、今存在している高等教育機関との連携がいかに大事なものかということを考えました。この学園都市が入ることのポイントとしては、未来の子どもたちのためには欠かせないものだとして認識しています。

会長 ありがとうございます。他にございますか。

委員 私自身は学園都市という言葉の中に今まで話し合いをしてきた色々な意味が込められているので、賛成してきました。パブリック・コメントの意見を読んだ時に感じましたが、審議会でも色々話してきた内容が分からないと、20年ぐらやってきた学園都市が、新しい答申としたときにどこが新しいのだらうというイメージを持つ人がいるのかなと思います。答申案には賛成です。何か他にいい言葉があるかなと考えてみたのですが、適したものはなかったです。そういった意味で

も、やむを得ないかなと思います。強いて言うのであれば「文教のまち米沢」が考えられますが、今度ははっきりしないと言われそうな気がします。しかも漠然としすぎますし、内容を表すキャッチフレーズとしては学園都市が止むなしだと思って賛成しております。

委員 私は「都市」という表現に少し違和感があるところですが、全体で何回か審議を重ねて学園都市となったので、今さらどうしようという気はありません。私は学園都市といわれる大学の近くの地域に住んでおりますし、学生として学んだ身分でもありますので、学園都市として20年間同じような目標できたのに、今まで何かしたのですかという疑問もあると思います。ここに住んでいて、この20年間で地域と大学が何か変わったことをしていましたかといわれると、オープンキャンパスや子供向けの講座をやっているけれども、地域と学園のつながりが希薄になっている気がします。現在、学生用のアパートで近隣が埋め尽くされてきており、どんどん地域が壊れてきています。しかも、近隣のアパート経営者が米沢にいらっしゃらないので、管理者がいないところで学生が生活しております。地域の人たちは学生のアパートで削られ、コミュニティがなくなるという危機感を感じながら、地域で生活しているので、「学園」はいいですが、「都市」と言えるのかなと疑問が残ります。全体的には学園都市の構想だろうとは思いますが、20年前にこの学園都市構想を勉強してきた方には疑問を持つ人もいるのかなと思います。

委員 学園都市推進協議会について御説明します。学園都市推進協議会が出来たきっかけは、20年ぐらい前に山形大学工学部の移転問題が浮上してきたことに端を発します。御承知のとおり、山形大学工学部は創立100有余年に及び、近現代において米沢市と共に歩んできた歴史といっても過言ではないと思います。こういう学校が米沢から去ってしまうような事態になると、米沢の将来も暗澹たるものになるということで、産業界に限らず市民団体こぞって、もっともっと大学と地域の絆を深めていこうという趣旨で設立されました。学生の支援に限らず先生方の研究支援や、学園生活の色々な面での連携をとっておりまして、そのおかげもありまして、それまでは大学は入りづらかったのですが、先生方も地域に出てきて、地域と大学の関係はここ20年で劇的に変わったのではないかと思います。学園都市推進協議会だけの効用ではないと思いますが。学園都市推進協議会のような存在は、全国でもその当時は割と稀有でした。今は各地でいろいろあるようですが。地域と大学の連携・協調という活動がだんだん緒について、活発になってきているのではないかなと思います。

会長 そういった歴史で今までやってきたわけです。他にございますか。

委員 学園都市のキーワードについては、このままでいいと思います。人口8万数千人に山形大学工学部と米沢栄養大学、米沢女子短期大学の3つの高等教育機関があるので学園都市と言うとあるのですが、その3大学の機能をまちづくりにどう活かしていくのか、活かされるのかというのが、全体を読むと見えづらい点があったので、将来像のパブリック・コメントはそういったことが違和感のもとであったのかなと感じました。先ほど産業界と学園都市との関係のお話がありました

が、食生活等の面でも米沢栄養大や女子短大はそれぞれの大学機能を活かさせますし、山形大学工学部では都市整備等の機能も活かせると思っていますので、今後実施の面でそれぞれの大学の機能を活かすという面を見えやすくするということが重要ななと思います。

会 長      ありがとうございます。他にございますか。

委 員      大学と地域の関わりということでは、私南部コミュニティセンターにおりますけれども、先ほどの委員がおっしゃったアパートの管理会社が米沢にないという話は、認識不足でした。地域にいる方が管理している学生のアパートは、管理人の会を組織しており、どうしたら学生に快適な生活を送ってもらえるかということとを協議しております。また、南部コミュニティセンターは工学部がある地域のコミュニティセンターということで、以前は大学の先生にコンピュータのグラフィック教室を開いていただいたことがありました。今は大学の先生はお呼びしておりませんが、学生のサークルでジャグリングサークルというサークルがあって、秋の文化祭の折にお呼びして、地域の方々にお見せできればいいのかなと思っています。また、南部小学校の文化祭には、工学部の学生が毎年来ていただいて、理科実験などをしてくださいますし、地域との交流はあるように思います。また、私はかつて民生委員をしていたことがあったのですが、米沢は雪が多い地域ですので、工学部の研究室と南部地区の民生委員がコンタクトを取って、除雪ボランティアをお願いして、一人暮らしのお年寄りに喜ばれるなど、学生との交流はあると私は見ております。「学園都市」ということで、なかなか見えないかもしれませんが、地域の社会教育を担当する責任もあるのかなと思っています。また、以前に NCV で「南部の宝」という番組を放送してもらったのですが、大学の記念館にある帝国人絹の発祥の苦労が展示されているところなどを南部の宝の一つとして放送していただきました。また、理科センターでは工学部のお力をお借りして理科講座をやっておりますが、地域の方からも働きかけをして大学と仲良くしていけばいいのではないかと考えております。そういったことを続けることで学園都市ということも少しは生きてくるのではないかと思います。また、松川コミュニティセンターでは米沢女子短期大学や米沢栄養大学と協力し、小説をつくるといった講座もやっているとお聞きしております。お互いに協力すれば学園都市も浸透し、市民へ周知できるのではないのでしょうか。

会 長      ありがとうございます。かつての大学教員は、研究と教育だけすればよかったのですが、最近では地域貢献が求められています。全体のうち研究が3割、教育が3割、地域貢献が3割で残り1割が大学の管理運営に関わる内容となっていて、教員はその評価をされております。昔と違いまして地域と何らかの関係を持たなければいけないと思っている先生は増えていると思います。今後とも大学を活用していただけるようお願いしたいと思います。また、今回の学園都市構想の中には、小中高との連携も入っているはずで、そういう意味で、小学生を相手にした子ども実験などの講座をすとか、中学生では城戸先生等の実験教室に参加すとか、高校では、例えば興譲館と工学部が高大連携を結んでいますので、先生の研修を含めて生徒も大学に来て一緒に実験や授業を受けるとか、教授が高校で

授業をしてくるといった、理想的な学園都市が出来上がってきているのではないかと考えていますので、そこをうまく使おうというのがそもそもの発想になっています。米沢の最大の特色なのかなと思いますので、是非御理解をお願いしたいと思います。他に御意見ございますか。

委員 私もパブリック・コメントの結果を拝見し、やはり将来像について意見が来たかと思いました。委員の皆さまは教育関係の方が多いので、学園都市をとて意識していらっしゃると思うのですが、一般の市民にとっては、この学園都市構想は一旦崩壊しているのだと思っている方が多いと思います。街なかに集積していた興譲館や工業高校が郊外に出ていった段階で、まとまりがなくなってしまうという意識があるのだと思います。それを、また学園都市を旗頭にと言うと驚くのだと思います。私もそう思ったので、以前の会議の中で、そこを推し進める覚悟があるのですかとお話させていただきました。しかしながら、市内には学校に関わっている方は多いと思いますし、動きとしては私の周りでも学校との連携は強まってきており、学生はすごく活躍しています。ただ、やっている人は分かっているけれども知らない人がほとんどの状態なので、それをどうやって知らせていくかが大事なところだと思います。私が25年前に米沢に来た時、米沢をいいところだという人はほとんどいませんでした。誰に聞いても「米沢はなあ」という人ばかりでした。何て地元愛のないところなのだろうと思いました。ただ、25年経ってみんなと話す、「米沢はいいところだよ」と口をそろえて言っています。意識は変わってきましたし、「天地人」の効果なども大きかったと思います。皆さまの努力があったからだだと思います。私はこの学園都市の方向性でいいと思います。ただ、どうやって浸透させていくかということに力を注がなければならぬと思います。字面で見ると、学園都市がどのように地域とつながっていくか見えづらいので、絵に描いて知ってもらえるようなことはどうなのかと考えています。学園都市を円のイメージと捉え、一つの役割というイメージで、そこに山大がつながり、米短や栄養大学があって、食の部分でつながって、例えば南原の農業とつながっていくといった具体的にどことつながっていくのかを図等で作っていくと、分かりやすいと思います。

会長 ありがとうございます。機会あるごとに将来像を出していければいいですね。

委員 将来像は10年後のブランディング戦略そのものだと思います。ブランディング戦略は、継続的に市民に浸透して、それが戦略に変わっていくというブランドイメージをいかに定着させるかだと思います。ブランディングの関係から言うと、資産価値を再確認して包括的に表現するということがブランディングイメージです。それがきちんとされているかという観点で見れば、学園都市という一つのキーワードをきちんと証明しないといけないと思います。イメージした瞬間に、米沢市のいう学園都市がどういうブランディングかということをも市民一人ひとりがきちんと理解して想像できるかが最大のポイントだと思います。ある意味、浸透していないというのは、まさにこれから学園都市を将来像に進めていく話であるので、むしろ浸透していないのは当たり前であり、ブランドをこれから作っていく中で、皆さんの御意見にもあるような、学園都市と教育という密接なキーワー

ドがあって、それが将来的にも継続性があるという判断であれば、学園都市は作っていかねばならないことだと思います。その観点から、これからの米沢の10年のブランディングが学園都市と言うのであれば、それが一つの解だと思います。基本的にないものに対してブランドを作って、継続的に浸透させるということがブランド力ですから、そういった表現がここでできていないことが市民の理解できない原因になっているのではないのでしょうか。

会長 ブランド力としての学園都市ということで、10年後にはそうなってほしいですね。現在はブランドになるための要素が揃ってきているとは思いますが、どうやって整理していくかですね。

委員 資料2の7ページの基本理念のイメージは基本的に全て「人」のことを言っているんで、基本は教育ということだと思います。そういったところを意識的に表現されていないと、フォーカスがぼやけてくるのだと思います。一步引いてブランディング戦略という観点でこの計画を見ると、表現力が弱いので違和感を覚える人がいるのではないかなと思いました。

会長 ありがとうございます。他にございますか。

委員 「学園都市・米沢」というのは、人づくりや教育を大事にしてきた米沢をこれからも続けていくものだと捉えています。教育のまち米沢という意味合いの中で、10年後「学園都市・米沢」のイメージをさらにはっきりしたものにしていくのだと思います。高等教育機関が小中高や地域と連携し、開かれた学校づくりを推進してきたということは、既に一部の方々は分かっているんじゃないかなと思います。私も小中学校におりまして、例えば学校評議員では、大学の先生が少なくともお一人は入っているという学校が多くありました。なぜ小中学校の学校評議員に大学の先生がいらっしゃるのかなと考えると、新たな視点や大学という視点で中学校の学校経営を見てくださという意味だと思っております。大学の先生が学校評議員に出てきたり、町内会の役員等先頭に立って頑張っているんじゃないかなと、あるいは小中高校生のための講座等を開いたりしているのが実際に行われているわけで、高等教育機関の機能を活かしながら10年後「学園都市・米沢」を作り上げていくのだということは、高等教育機関だけがこれからの役割を担い、活躍していくわけではなく、高等教育機関が躍動することによって小中高や地域や様々な団体が人づくりを大切にしてきた米沢の路線に合致していくことを目指していくのかなと思います。学園都市というと、一見高等教育機関だけに焦点が当たりがちだと思うのですが、この高等教育機関の機能が活かされることで、他の諸団体や産業界等の分野が躍動していくのかなと捉えると、学園都市は米沢らしい新たなイメージを作り上げるうえではいいのかなと思いました。

会長 ありがとうございます。他に御意見はありますか。ないようであれば、今回の将来像については原案のとおりでよろしいのでしょうか。

委員 (異議なし)

会長 ありがとうございます。それでは、全体の確認について事務局からお願いします。

事務局 資料2「新総合計画策定について(答申案)」に基づき説明

- 答申案の全体的な修正箇所について御説明いたします。
- 修正をかけた部分については、網掛けとして表示をしております。
- 修正部分につきましては、パブリック・コメントの御意見をもとに修正をした部分、議会にお示しした際に御意見を頂戴しましたので、そちらをもとに修正した部分、それから事務局の方で再度見直しをかけて修正をした部分がございます。
- なお、字句の訂正等については網掛けをしておりますので御了承願います。
- 主な修正の部分についてページの順を追って説明します。
- 8 ページ、基本目標 5 番目の「安全安心に暮らせるまちづくり」の「暮らせる」と所に網掛けをかけておりますが、本案で「暮らす」と「暮らせる」という言葉を使用しておりましたので、全体的に「暮らせる」という言葉に統一させていただきました。
- 11 ページは、先ほどパブリック・コメントでも御説明させていただきました通り、市街地形成の基本的方向の部分に周辺部分についての方向性を加えさせていただきました。また、合わせてイメージとして図表をつけさせていただきました。
- 23 ページ、重点事業の 5 番目、雪対策総合計画の策定について分かりづらい文章でしたので、内容は変えずに文章の表現等を全体的に変えさせていただきました。
- 30 ページ「自然と文化、歴史を活かす観光の振興」で温泉地名度アップの施策等をもう少し盛り込めないかという御意見がありましたので、御意見に基づき施策 1 に修正をかけさせていただきました。
- 32 ページ「消費者や時代のニーズに合った農林業の振興」につきまして、収益性の高い酒米等についても少し入れられないかという御意見を頂戴したところから酒米等の言葉を追加させていただきました。
- 33 ページ「農業振興」の目標値については、ほ場整備事業等と地元産材を使った公共施設の現状値について誤り等がございましたので修正をかけさせていただきました。
- 35 ページ「安定した雇用と働きやすい環境づくりの推進」の施策について、労働福祉の向上で啓発以外の取組も取り上げていただきたいという御意見がありましたので、追加をさせていただきました。
- 39 ページ「子どもたちが健やかに成長する環境づくりの推進」について、国で小中一環校を制度化する改正学校教育法が成立したことから、内容が変わってきましたので適正規模・適正配置基本計画について修正をかけさせていただきました。
- 46 ページ「多様な文化とつながり、交流するまちづくりの推進」について、もう少し施策を追加できないかというような御意見を頂戴したことから、施策について修正をかけさせていただきました。
- 55 ページ「生きがいを持って高齢期を過ごせる長寿のまちづくりの推進」について、「老人クラブの加入者数」の目標値を 2,100 人と上方修正させていた

できました。

- 56 ページ「誰もが自立を目指せる環境の整備」について、障がい者の生活安全のために福祉的支援に関する取組をもう少し取り上げていただけないかと御意見を頂戴したところでしたので、施策 3-4 について施策を追加させていただきました。
- 69 ページ「利便性の高い道路・交通網の整備」について、公共交通を目指す目標値を分かりやすい形として、循環バスの平均乗車人数の方に変更をさせていただきました。
- 89 ページ「健全な行政経営の推進」について、ふるさと応援寄付金の現状の金額を修正したほか、経常収支比率の目標値を修正させていただきました。
- 91 ページ「他自治体との広域連携の強化」にある、置賜地域内の連携の推進について、移住促進の動きが最近出てきましたので、そちらの取組を追加する形で修正させていただきました。
- この他、目標値を新たに追加させていただいた部分等がございます。
- 42 ページ「誰もがスポーツに親しめる環境づくりの推進」に「体育施設利用人数」を追加させていただきました。
- 44 ページには「市指定文化財件数」、71 ページについては「下水道水洗化率」等新たな目標値を若干追加させていただきました。
- その他資料の最後に用語の定義を掲載し、市民が分かりにくい用語については定義付けをさせていただき、本文中については「\*」でお示ししております。

会 長      ありがとうございます。ただ今の説明のとおり、修正が入ったわけですが、何か御質問、御意見ありましたらお願いいたします。

委 員      39 ページの施策 2-2-2 「教育環境の充実」4 番目の取組ですが、適正規模・適正配置基本計画について、以前は「国のさまざまな教育改革の政策を踏まえ、この基本計画を推進します」という内容だったと思うのですが、「教育改革の見直し等の検討等を行います」とあるのは、様々な要因から適正規模・適正配置基本計画がおそらくは実施はされないだろうという意味合いがあるのでしょうか。以前の審議会の際に、私も適正規模・適正配置の計画を推進してほしいということで、それを重点項目に入れていただきたいとお話を申し上げたつもりでいたのですが、この文章だと適正規模・適正配置は見直した結果行うことはできない、実施されないだろうという見通しなののでしょうか。よろしくお願ひします。

事務局      担当部が出席しておりませんので、正確に申し上げることが出来かねますが、学校の適正規模・適正配置基本計画については、一定程度議論を重ねてきたという事実があるのだらうと思います。計画にも書いてありますが、国の様々な教育改革のなかで、国として、小中学校は一環として一つの学校に統合してはどうかという案が示されたとお聞きしております。その中身につきましては、小学校から中学校までを一緒にするのか、あるいは小中学校の 6・3 制を例えば 5・4 制にするのかなど、様々なことが考えられるということのようです。しかも、判断は各自治体に任せられるということのようでもあります。そうした場合に、今の学校の配置というものを考えると、いわゆる 6・3 制等の分け方次第ではどのよう

な配置が望ましいかという形がおそらく今後変わってくるだろうということで「見直し等」という表現をしたのだろうとっております。

委員 文部科学省の方針として小中一環教育という話があるというのは新聞で読んだ覚えがあるのですが、一方で小規模校の統廃合というような方針もあるようなことを新聞で読みました。文部科学省は小中一環教育だけを推進しているわけではなく、いわゆる小規模校の統廃合も打ち出しています。そうすると、今のお答えですと、米沢市はとりあえず適正規模・適正配置基本計画は白紙にするということなのでしょうか、それとも小中一環教育というような流れに傾いているのだと考えればよいのでしょうか。非常に申し訳ない質問ですみません。

事務局 そこまで決めているということではないと理解しておりますし、先ほど申し上げましたが、1つの自治体で決められる問題なのか、あるいは県全体の考え方なのかということがあるのだと思います。学校の6・3制等が違うということになれば、教職員の配置の仕方も各自治体によって違ってきますし、教職員は御存知のとおり県費の方でいらっしゃいますので、県費の教職員がそれぞれの自治体に行った時に全然違う制度のもとで行っていいのかという大きな問題になりますので、その結論もまだ出ておりませんので、これから考えていく意味合いだと思っております。

委員 適正規模・適正配置の有無を持ち出した時に、地域を巻き込んで会議をして、説明会を開いて、各地域を回って地域の方々を説得してこの適正規模・適正配置の計画を作ったという経緯があるのだと思います。子どもたちを含めて米沢市民は、何年後かには南の地区の中学校ができ、次は西部地区の中学校ができるというような話を聞いていたのが、数年前に突然小中一環教育の話が文部科学省から出て、いわゆる見直し論が出てきたのですが、あまりにも大がかりに全市的に取り組んだはずなのに、文部科学省の小中一環教育が出てきただけで、適正規模・適正配置基本計画を断念していいのかなと疑問があったので、審議会の委員をお受けしましたので、ぜひこの計画を推進して欲しいなということと言い続けてきたのですが、今日この文案を見て、残念に思ったので、申し訳ありませんでしたが、質問させていただきました。

事務局 今までも申し上げてきましたが、今までの計画を全部白紙にすると決めたものでありませんが、見直しや継続することももちろんありえるわけですが、今国の考え方が大きく変わろうとしているものですから、今までどおり進んでいいのか、あるいは一旦立ち止まって検討する必要があるのではないだろうということで、「見直し等」という表現になったことを御理解いただければと思います。適正規模・適正配置基本計画をなくすということはこの答申案で決めているわけではないということです。

会長 ありがとうございます。他にございますか。

委員 (意見なし)

会長 これですべての議論が終わりになるとは思いますが、この原案につきまして、訂正を含めて答申の正案として市長に答申するという事で皆さまから御賛同いただけますでしょうか

委員 (異議なし)

会長 ありがとうございます。それでは予定の3時まで残り25分ほど時間が残っておりますので、皆さまから情報等ございませんか。

委員 山形県の地方創生ということで、知事と意見交換を行ったのですが、その際に私が提案した内容がありますので、情報提供ということでお話しします。私の会社はIT会社ですので、グローバル的にどうITが変化して、山形県がどうすべきかということをお話させていただきました。まず、地方創生や人口減少と言っている中で、都市の現状について企業的な観点とIT的な観点でお話をします。現在企業は全国で162万社あります。その内17%が東京の企業で、神奈川、埼玉、千葉を含めると30%を超えます。さらに、売上高のトップ100社のうち70社が東京であり、上場企業の約50%が東京という実態で、本当に一極集中なのです。そうした中で地方に会社を移転する話は、従来と比べたらかなり難しいという話をさせてもらいました。その中で、ITという観点から見ると、どういう形に世界が動いているかという話をさせていただいたのですが、皆さま新聞等でIoT(Internet of Things)という言葉が御覧になったことがあるかと思いますが、「もの」とインターネットをいかにつなげるかという話で、このIoTの世界が来るだろうと言われていまして、デジタル革命といいますか、ドイツでは第4次産業革命と言われている話があります。中国ではインターネットプラスと言われています。過去20年間インターネットはものすごく発達してきましたが、これは消費者向けなのです。グーグルもそうですし、アマゾンなんかも消費者向けです。今回どういうものが出てくるかという、色々な工業製品が通信発信を始め、それがどういう現象になるかという、生産性が一気に上がります。これに対してどういうことをやるかということが非常に難しい話で、日本は若干IoTでは遅れています。というのも、IoT自体アメリカから出てきたものですし、ドイツやヨーロッパ界がものすごく力を入れています。しかし、日本は遅れているものの、この要素技術の、例えば生産関係とかクラウドとか、フィルタリングとかは日本が得意とする分野です。こういうところにチャンスがあると話をしました。山形大学工学部も同じ生産系なのでIoTのつなげるという意味では、全国レベルで使えると思っています。今回の教育の話はまさにそうですけれども、人口を外に出さないように、中から会社が生まれてくると、雇用が生まれますので、そういったことがサイクルとして生まれてくるのではないかなと思います。

もう一つは、「テレワークタウン」ということがあります。テレワークタウンとは、長野県富士見町が発信しているものでして、テレワークというくらいですから、ネットワークです。ネットワーク技術で日本は世界一なのです。田舎に行ってもインターネットができ、無線LANが整備されています。つまり、田舎に行っても東京と変わらない仕事の環境をつくれるのです。それを一番初めに取組んだのが富士見町ですが、そういう取組をすれば、六本木にあるオフィスがそのまま田舎に来ていただいて、ワークバランスを取りながら生活できることを推奨しています。これが意外と好評です。そうすると、そういったまちをつくらうかという話になり、ベンチャーの方は食べ物や空気がおいしく、生活の質も良く自

然があるということで、都内と全く変わらない仕事レベルで、いい生活環境の中で仕事ができるという考え方が増えてきている。まさに、米沢もそうです。私が言ったのは、山形はテレワークに合致している県ではないかとお話しました。

あと、先ほどブランディングの話が出ましたが、山形県のブランドというのを浮かべますでしょうか。やはりサクランボや米だと思えます。しかし、サクランボや米はブランディングではなくマーケティングなのです。先ほど話をしたのですけれども、マーケティングは基本的には、その商品をいかに売るかということがマーケティングです。ブランディングは継続的にどうやって売るかということ、定着させるということがブランディングです。その違いが大事で、間違えるとマーケティングに走ってしまいます、ただ、マーケティングはものすごく大事で、山形のイメージを持たせるサクランボや米のイメージを持たせるには大事なのです。次にやることは、ブランディングをちゃんと図るということです。ですから、買いたいとか訪れたいというランクからブランディングになると、交流したいやここに住みたいとなります。ここに住みたいということから、ここで仕事をしたいと思わせることが大事なのです。また、外から人を連れて来ることも大事なのですが、ここに住んでいる人たちが、地域に対してブランド力を感じてここに残って、ここで生活して、ここで仕事をしたいと思うような気持ちをちゃんと作り上げるのがブランディングだと思います。それは米沢だけでなく山形全体がそうだという話をさせてもらいました。これまで委員の皆さんで真剣に審議していただいた内容というのがこれから 10 年先の米沢のブランディングをどうやって作り上げていくかという話だと思います。そんな話を県にしたところでした。

会 長　これから 10 年間、この計画で動いていくわけですがけれども、我々は 10 年間監視をする義務がありますので、是非監視役も一つお願いしたいと思えます。行政は監視をされて大変でしょうが是非頑張ってくださいたいと思えます。我々はこうやってほしいというばかりで、行政の皆さんには失礼な言い方をしていると思えますけれども一般市民の声ということで御理解をいただいて、よろしくお願ひします。

委 員　一般市民の立場で言いますと、今後 10 年に向けて見える化の仕方を工夫していただければ良いのかなと感じているので、審議会で答申したことが、市民の皆さんに見えるような広報なり告知なり、もう少し工夫をしていけたらいいのではないかと思います。例えば、上杉城下町マラソンがまちなかで行われるようですが、参加している友達からまだまだ参加者が足りないという話があって、県外等あちこちにマラソンの友達がいるので、是非米沢に来て下さいと友達にメールで連絡しました。ところが、米沢市のホームページにアクセスしても、上杉城下町マラソンのページがすぐ見えるような状況になっていないと文句を言われました。辿っていかないと情報が出てこない。例えば、米沢市でやるのであれば、ホームページのトップ画面に市民マラソンの告知があつてしかるべきだろうと御叱りを受けましたので、代表してお伝えします。例えばそんな話ですが、せっかく審議されたものが、市民全体に広がるような見える化の工夫をしてやっていった方がいいのではと思えます。

会 長 先ほど委員からもイメージを書いてというお話がありましたが、私も今回うこぎの話をさせてもらいまして、うこぎの情報を市関係のホームページに一つにまとめて、市民がうこぎの情報を共有し、発信できるように作ろうとしています。それと同じで、マラソンであれば、まず米沢市を探すので、市役所のホームページが出てくるわけですから、そこに何か書いてあれば、当然見るわけなので、先ほどインターネットの話もありましたが、是非活用いただきたいと思います。

それでは、全部で10回の審議会は皆様のおかげをもちまして終了することができます。ありがとうございました。これをもちまして、議長の任を解かせていただきます。

事務局 大変ありがとうございました。ただ今より答申の準備をいたしますので5分程度休憩いたします。

(会場の準備)

事務局 それでは、準備が整いましたので、答申を行っていただきます。尾形会長、前へお進みください。市長も前へお願いします。

それでは、尾形会長、市長に答申をお願いいたします。

会 長 米沢市長 安部三十郎様

新総合計画の策定について、平成26年6月5日付けで諮問のありました新総合計画の策定について、慎重に審議を重ね、別冊のとおり取りまとめましたので答申します。

平成27年8月7日 米沢市総合計画審議会会長 尾形健明

(市長へ答申)

市 長 どうもありがとうございました。

事務局 ありがとうございました。お席へお戻りください。それでは、会長より答申の言葉を頂戴いたします。

会 長 本審議会は、平成26年6月に「新総合計画の策定について」、市長より諮問を受けて以来慎重審議を重ね、この度その取りまとめを終わりましたので、先ほど答申いたしました。

米沢市を取り巻く社会情勢は、現行の米沢市まちづくり総合計画が策定された平成17年から変化し続けています。

特に人口については、平成20年度をピークに国全体で減少に転じており、米沢市も例にもれず人口減少社会が到来しています。また、少子高齢化が進展しており、さらに、生産年齢人口の割合も減少に転じている状況です。

米沢市の経済力の源である商工業は、人口減少の影響を受け、人口減少がそのまま進行した場合、労働力人口の減少や地域活力の低下、社会保障費の負担等による社会経済に与える影響が懸念されています。

こうした中において、市町村の役割は大きなものとなり、自主性と自立性が一層重要になっています。期を同じくして、国では平成26年9月に「まち・ひと・しごと創生本部」を発足させ、人口減少対策や地方活性化等「地方創生」に向けた動きが活発化しており、市町村ではより一層の創意と工夫に満ちたまちづくりを推進・展開する必要が高まっています。

こうした状況を踏まえ、これからの10年間を展望したとき、人口減少社会に対応できる地域の特色を活かしたまちづくりを進めていくことが強く求められています。

地域の特色を考えますと、まず学園都市ではないかと思えます。山形大学工学部、山形県立米沢栄養大学及び山形県立米沢女子短期大学の3つの高等教育機関が立地しています。同規模の都市に3つの高等教育機関が立地しているのは全国でも珍しく、各大学合わせておよそ4,000人もの教職員・学生が生活している学園都市を形成していることは、本市の大きな特色になっています。

そのため米沢市は、産学官民連携による地域産業の振興や新産業の創造、学問への高い関心と深い教養を培うことによる豊かな人間形成等、米沢市の魅力を更に高めるための環境が整っているという強みを持っています。

また、米沢市は、歴史と文化、緑豊かな自然等の地域資源に恵まれていることも大きな特徴です。それから、日本初の人造絹糸の製造や有機EL照明の製品化、ノート型パソコンに代表されるように、既成概念を打ち破り、新しいものをつくりだすものづくりのまちでもあります。

これまでも、こうした強みや地域資源を活かしたまちづくりが行われてきましたが、今後は学園都市が持つ機能をさらに活かして、観光、商工業、農業、教育、子育て等幅広い分野の施策を推進するまちづくりを行い、交流人口の増加などによる地域の活性化が求められる時代であるといえます。

こうしたことから、今回の計画では、米沢市の強みでもあり特色でもある学園都市を形成しているところを最大限に活かして、未知なるものへの果敢な挑戦を行い、それが創造を生み、そしてまた新たな創造につながるといった循環を起こすことにより、ひとが輝くまちを目指すことを市の将来像として掲げたところです。

これを実現するために、6つの基本目標を定めました。一つは「挑戦し続ける活力ある産業のまちづくり」、2番目は「郷土をつくる人材が育つ、教育と文化のまちづくり」、3番目は「子育てと健康長寿を支えるまちづくり」、4番目は「自然と都市の魅力が調和し、賑わいと交流を促すまちづくり」、5番目は「安全安心に暮らせるまちづくり」、最後に「持続可能なまちづくり」の6つをまちづくりの基本目標に掲げております。

また、まちづくりを進める主役は市民一人ひとりであることから、「人づくり」を進め、まちづくりへの市民参画を促していくことを基本理念として定めたところです。

さらに、様々な施策に取り組むことにより、平成37年の想定人口を国の推計値と比較して約1,000人増の78,600人と見込んだところであり、この計画を実現させるため、特に前期5年間における11の重点事業を掲げたところでもあります。

今回の計画の策定にあたっては、市民や中高生アンケート、有識者インタビュー、パブリック・コメント等を実施したほか、審議会とは別に30人の市民の皆さんと市の職員の方とが一緒になってまちづくりについて考えていただくなど、多くの方から御意見を頂戴し計画策定の際に大いに参考にさせていただいたとこ

ろです。

このように、この計画は、委員の皆さんや多くの市民の皆さんの豊かで住み良いまちにしたいという熱意がこもったすばらしい計画になったものと考えております。

そして、今後の最も重要な点は、この計画をいかに実行していくかであります。計画を絵に描いた餅にせず着実に実行していくためには、計画づくりに参画していただいたここにお集まりの委員をはじめ多くの関係者の皆様や市民の方々にも、ここに掲げた目標を常に意識して達成に向けた取組みを進めていただきたいと強く考えております。市民と行政の協働のまちづくりを進め、さまざまな課題を克服し、明るい未来ある米沢市を築き次世代へ引き継いでいくことを願っております。

最後になりますが、会長代理を始め、委員の皆さまにはお忙しい中、多くの貴重なご意見を頂きました。皆様方の御協力、御尽力に感謝するとともに、事務局の皆さん方に対しましても深く感謝申し上げます。更なる市勢の発展を願い、答申のことばといたします。

平成27年8月7日 米沢市総合計画審議会会長 尾形健明

(答申(写し)の配付)

事務局 会長ありがとうございます。続きまして、市長が御挨拶申し上げます。

市長 ただ今答申をいただき、誠にありがとうございます。何度も審議会を開いて御審議を賜ったうえでの答申でありますので、重く受け止め、今後の市政運営に十分反映をさせていただきます。

お礼の意味で、少し感想を述べることをお許しいただきたいと思います。少し早めに会場に来て博物館の「昭和原風景ジオラマ展」を見てきました。米沢の昔の写真がたくさん出ていて懐かしかったのですが、とりわけ昭和30年代の写真があり、それを見て思い出すのは、以前の総合計画、かつては建設振興計画とっておりましたが、確か2次あたりを読み返したことがあったのですが、米沢は人口が20万人に増え、北に発展していくという前提のもと計画が練られておりました。結果的にはそういう様にはならず、しかも街なかは空洞化しました。ただ、八幡原工業団地をはじめとして産業の転換が図られ、米織から電気電子へ他業種に変換をしていきました。うまく当たったところも外れたところも、良かったところもそうでなかったところもあったと写真を見て当時の振興計画を振り返って感じました。計画と言うものはその時点での計画ですので、計画と現実と両方を睨み合わせながら実施していくべきものと思っております。そういう意味では、いただいた答申に沿って10年間進めてまいります。現実と突合せながらという努力は必要だと思っております。また、計画の進捗状況はどうなっているという点で、皆さまから叱咤激励、アドバイスを賜りたく存じます。

もう一つは、会長からもありましたが、これまでの総合計画と違った特色として「学園都市」という具体的なものが挙げられていることです。一般的なものだけでなく特色あるものが出ていると思っております。そういう特色の出し方も良いと思っております。10年間ですので、思い切ってみるというのも進む価値があ

るのではないかと思いました。そういう意味では、学園都市の充実を図っていかなければならないと思います。また、学園都市の意味ですが、学校があるから、また建物があるから学園都市なのではなく、学校に学んでいる一人一人の学生がいて、先生がいて、職員がいて、それを支援する市民がいて、あるいは学校から溢れ出す様々な研究が市民生活や産業に影響を与えて付加価値を高めていく、そういった様々な相互の影響の仕方があって初めて学園都市だと思いますので、心して計画の実施を進めていきたいと思えます。皆さま方には重ねて御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

事務局　本日はお忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございました。これをもちまして本日の米沢市総合計画審議会を閉会いたします。

(4) 閉会

以上